

**報道関係各位**

(本記者発表に関わる記事の解禁は、新聞社は11月3日(金・祝)の朝刊から、そのほかは11月2日(木)の17:00 からとさせていただきます)

平成29年10月26日

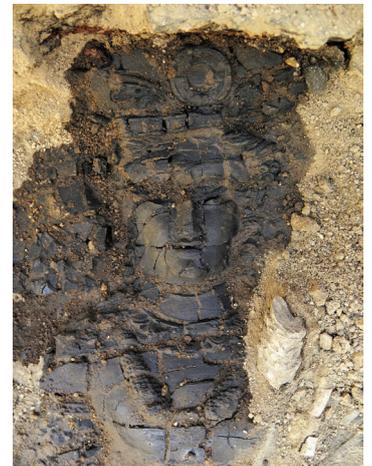
**【記者会見のお知らせ】**

**シルクロード都市 ウズベキスタン・サマルカンド州  
カフィル・カラ城における  
ゾロアスター教浮彫板絵の発見**

帝塚山大学(学長:蓮花一己 所在地:奈良市帝塚山7-1-1)とウズベキスタン考古学研究所が、本年9月に共同実施したウズベキスタン・サマルカンド州カフィル・カラ城(シルクロード都市)の調査において、ゾロアスター教の浮き彫り板絵を発見しました。

この板絵が、完全な形で発掘されたことは初めてのことであり、シルクロード交流の解明にあたって重要な意義があるとして報告させていただきます。

つきましては、下記の通り記者会見を開催いたしますので、ご出席方宜しくお願いいたします。



右:出土直後のゾロアスター教の神像図(女神ナナー)/部分

記者会見概要	会見場所
<p>1. <b>【会見日時】</b> 2017年11月2日(木) 10:30~</p> <p>2. <b>【会見場所】</b> 帝塚山大学 奈良・東生駒キャンパス 3号館 会議ホール (奈良市帝塚山7-1-1)</p> <p>3. <b>【発表者】</b> <b>調査責任者:</b> 宇野隆夫(帝塚山大学文学部教授) <b>共同研究者:</b> 寺村裕史(国立民族学博物館 人類文明誌研究部助教)</p>	

お車でのご越しの場合は、通用門からお入りください。そこで駐車場所をご案内させていただきます。

<p><b>本件に関する お問合せ 発信者</b></p>	<p>帝塚山大学 広報課 〒631-8501 奈良市帝塚山7-1-1 Tel:0742-48-9192 E-mail:koho@jimu.tezukayama-u.ac.jp</p>
---------------------------------------	---

## 【調査概要】

**調査責任者:**宇野隆夫(帝塚山大学文学部教授)

**共同研究者:**寺村裕史(国立民族学博物館, 人類文明誌研究部助教)

ウズベキスタン考古学研究所との共同調査

**調査経費:**文科省科学研究費補助金海外(B)「先端技術を用いたシルクロード・シルクロード都市の総合的調査研究」, 帝塚山大学研究費

**調査目的:**シルクロード交流の総合的研究

ソグド文化の解明

**発表成果:**ウズベキスタン・サマルカンド州のシルクロード都市カフィル・カラ城(Kafir Kala Tepa)の玉座付近で発掘した、ゾロアスター教の浮き彫り板絵について。



カフィル・カラ城発掘現場

## 【板絵発見の意義・今回の記者会見のポイント】

1 ゾロアスター教浮き彫り板絵が初めて完全な状態で発掘されたことによって、板絵が女神ナナーに火、供物、音楽を捧げる讃歌を主題とするものであることが明確になった。

2 板絵がシタデル(王宮地区)の最重要な場である玉座があったと推定できる部屋の壁を壁画風に飾っていたことが明確になり、その重要性を確認できた。

3 この場が焼失した年代を八世紀初め、おそらく西暦710年と正確に定めることができ、アラブの進攻による中央アジアのイスラム化直前のものと判定できた。

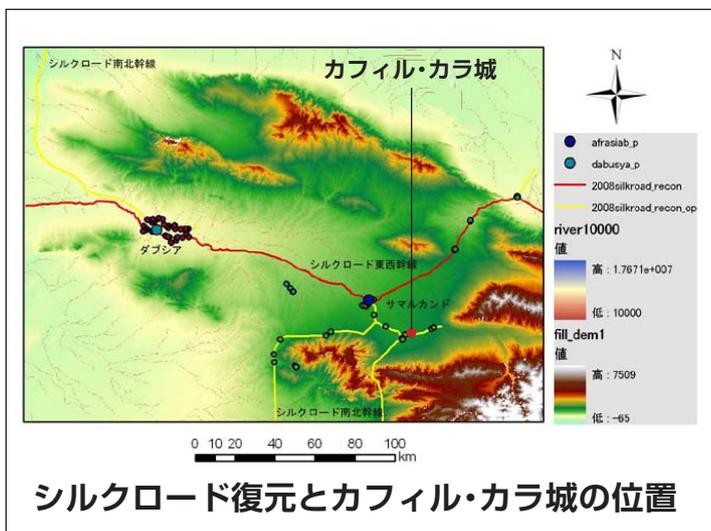
4 音楽隊の楽器には、正倉院宝物における著名な楽器の琵琶や箏篳と同じものがあり、それらが日本に伝わるシルクロード交流において、中央アジアが重要な地域であったことが具体的かつ明確になった。

## 【概要】

カフィル・カラ城は、中央アジア最大のシルクロード都市であるアフラスiab城の東南30kmの戦略的に重要な地点にあり、王の離宮説が有力です。

板絵はカフィル・カラ城の最重要地点である、シタデル(城塞, または王宮地区)の玉座があったと推定できる部屋から見つかりました。板絵には鉄釘で打ちつけた穴があり、壁を飾っていたと推定できます。

これらの資料はカフィル・カラ城が全焼してできた火災層から発見され、年代は貨幣などからソグド王タルフン(Tarhun)(在位700-710年)の時代と推定できました。おそらく西暦710年に、アラブ勢力が中央アジア攻めた時に焼け落ちたものであると考えられます。



シルクロード復元とカフィル・カラ城の位置

本件に関する  
お問合せ  
発信者

帝塚山大学 広報課 〒631-8501 奈良市帝塚山7-1-1  
Tel:0742-48-9192 E-mail:koho@jimu.tezukayama-u.ac.jp

## 【板絵について】

板絵は、幅1.4m、高さ1.3mで、四段の構成となっています。

第三段・第四段(最上段)の中央には、大きく女神ナナー像が獅子に乗った姿で描かれています。ナナーはペルシア起源の女神でありソグド地域ではゾロアスターの最高神とされています。

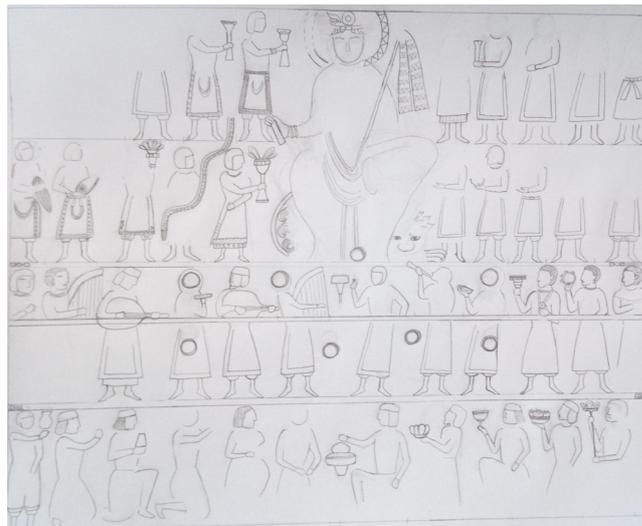
第三段・第四段の女神の左右には捧げものや燭台をもつ人が描かれています。

第二段には、女神の前面で演奏する、音楽隊が描かれます。その楽器には琵琶、豎琴(箜篌、箏篎)など正倉院宝物に類似するものが見られます。角笛やタンバリンの奏者もいます。

第一段の中央には、拝火壇があります。これはゾロアスター教(拝火教)に特徴的なものです。その左右には供物を捧げる人がいます。



今回発見された板絵(全部)



板絵の図像再現図



琵琶や箜篌をもつ音楽隊(部分)



玉座があったと推定される部屋の入り口には高さ約2mの木製アーチが存在して、浮き彫り板絵と同様の装飾がなされていた。

本件に関する  
お問合せ  
発信者

帝塚山大学 広報課 〒631-8501 奈良市帝塚山7-1-1  
Tel:0742-48-9192 E-mail:koho@jimu.tezukayama-u.ac.jp



学校法人帝塚山学園